



かい パーティ かいじょう  
▲4階パーティ会場

# 今年もよろしく

# ピースクラブ通信

No.12

発行 社会福祉法人 ピースクラブ  
住所 〒55610014 大阪市浪速区大田1丁目1-1  
連絡先 Ⅷ&FAX 06-6664712077  
Eメール peaceclub@s2.dion.ne.jp

ピース恒例の餅つき新年会が1月13日に行われた。午前11時から始まり、前日から水に浸けておいた10数キロのもち米を蒸して、参加者で14、15臼ついた。濃い紫色の紅芋あん、納豆きな粉、小豆、大根おろし、数種類のトッピングでそれぞれの味を楽しみながら食べた。今年はおじさんの旧いお友達達の東京のグループが20人近く参加されたり、普段、食材の野菜を納品してくれている市内のグループの参加もあり、人数がいつもより多く、賑やかだった。

午後2時から4階ホールでのパーティです。トウヌマースの司会で一芸自慢の者達がそれぞれの芸を披露。午前の餅に始まり、4階ホールでのパーティ料理でお腹もいっぱい。みんなの歌や踊りですっかりなごみ、胸もいっぱい、アルコールが入って赤い顔の者も……。こうしていつものようにピースの一年が始まった。

この通信がみなさんの手に届く頃にはもう終わっているかもしれないが、1月18日から29日の間、西区南堀江の天音堂ギャラリーで中村晋作氏の大阪デビュー展が開かれる。2月になれば沖繩、宮古島の朝子さん宅の砂糖キビ援農へのツアーがくまされるだろう。ピースクラブでは昨年末に水道管にフイ

## ピーコラ

個展が終わって体調が悪い。風邪を引くわ、肩こりからの偏頭痛に悩まされるわで、燃え尽き症候群？と言ったら、ただの呑み過ぎじやろと笑われる(笑)

▼個展は新作もあるが、自分の場合寡作だし、どんとん売れるような作品ではないので、結果、普段倉庫に仕舞われている旧い作品を並べることになる。これはかなりナルシステイック、いや、Mの世界に近いかもしれない▼作品はそれぞれそのときの描かざるを得ない想いを描いている。四方をそうした作品に囲まれ、嫌でも自分の人生を振り返らざるを得ない。まるで鏡の中の四六の蝦蟇だ。今回はとくにそういう個展だった▼10日間の会期中に新しい出会いもあり、自分の中で燃え残った埋み火がまた燃え広がって、次の個展に向かわせるのだ。絵かきの習性である。(普)



▲佐伯君もダブル成人

ルターをつけて全館温泉水  
というか、数十種類の岩の  
フィルターでろ過された水が  
出るようになった。このフィ  
ルターにさきがけて、3階風  
呂の浴槽も、フィルターの岩  
の粉を使ったマイルに換えら  
れて、保温力の高い、身体  
がすこく温まる風呂になっ

ている。これを読まれている  
御家族のみなさんもうど  
ぞピース温泉に入りに来て、  
いったいどんなものか体験  
してみてください。  
とまれ始まった2008  
年、今年もよろしくお願  
いします。

(岸本隆)

わたしは、大阪市の小  
学校で教師をしている。気  
がつくと、もう、半世紀も、  
生きてきた。人生の半分以

## わたしが教師になったわけ

矢野 初枝

上を、教師という仕事をし  
てきたことになるが、何だか  
あつという間の出来事の様  
な気がする。



▲父子で餅つき

もともと、わたしは、教師  
だけに、なりたくないと思  
っていた人間だ。なぜなら、  
先生という仕事が大変だ  
からだ。そんなわたしが、  
なぜ教師になったのか、  
ほんとに不思議に思う。

わたしの運命を変えたのは、  
大学生の頃、能勢のキャン  
プ場でキャンプカウ  
ンセラーをしていた時に、出  
会った子どもたちだった。中  
でも、大学生最後の夏に出  
会った中学生たちとの、キャン  
プは、今でも忘れられない。  
その中学校は8クラスあつ  
て、全部のクラスに障害の  
ある子どもがいた。車いす  
の子どももたくさんいた。わ  
たしの担当のクラスには、筋  
ジストロフィーの男の子(通  
称エモハン)がいた。先生  
方の願いもあつて、車いすの  
子どももみんな山登りをする  
ことになった。カウンスラー  
と先生とで、交替でおんぶを  
して登るのだ。しかし、エモ



▲右が初枝さん

ハンだけは、疲れさせたいけないということ、登れなかった。でも、展望台なら頂上から見えるし、せめてそこまでは、車いすで行こうということになった。わたしたちは、展望台でエモハンと別れて、頂上まで登った。頂上から、エモハンが見えた時、ほんとにうれしかった。クラスのみんなで、「エモハン」と叫んだ。エモハンはクラスのみんなから慕われていた。

このクラスの子どもたちの中に流れる温かい空気が、本当にすばらしかった。いや、クラスだけでなく、学年全体が優しさに包まれていた。障害のある子とクラスの子どもたちとのつながりが、とても自然で、対等な感じでした。こんなふうに、わたしは、キャンプ場で出会った子どもたちにも、優しさをいっぱい教えてもらった。そして、わたしは、教師になろうと思った。教師になって、子どもたちと泣いたり、笑ったりしたいなと思ったのだ。

た。教師になったおかげで、今年もすてきな子どもと出会うことができた。自閉症は、ほんとに楽しく、微笑

## リラックマゆりえちゃん

たでもちえ  
蓼本千恵

ある日のヨガの後の一場面。

寝転がっているゆりえちゃんに「癒して〜とくつつく。すると受け入れて、時々優しくポンポンと手を動かした。

穏やかな、なんともいえない雰囲気。漂った。様子、見てたらほにゃ〜とほころんだ。ほのぼのが広がっていった印象的。

リラックマゆりえちゃんや!

ゆりえちゃん、リラックマに似てる…。

そう思った。

似てないですか?



# としはじめの初めに思うこと

ピースクラブは24時間を目指していたけど、自由な24時間のためのとり組みが出来ていない。中途半端な思い方で、中途半端な生き方は何も生まない。

去年一年間とにかく、そのろそろと、自分のこともピースクラブのことも守りながら生きてきた。いろんな人とつき合いながら自分の線がもてていかなかったように思う。

水―岡田さんとの出会いは面白いし、そこから仕事も出来そうだけど、いいところりではいけない。自分自身の力がためされる。例えば料理に、例えばパンに。でもそれを一生懸命やるという風にはなっていない。

心のどこかでピースクラブの日常が仕事になってしまっている。私の人生じゃなかったのか。今の制度をとり

これだ仕事か私の人生ではないやだという気持ちがある。色んなことを、おざなりにしてしまっている。

すごい風呂が出来た。すごい水が流れている。今の皆はそこに感動がない。感動を共有していない。

「夢」というか、魂が枯渇している。労をおしんでいる。おざなりの仕事、おざなりの生き方をするくらいなら死んだほうがましや、と私は思う。晋作さんが渾身の絵を描いている。おつ君ががんばっている。道本が一人で宮占まで行く。かめちゃんか聡の面倒を見る。聡が家族の要になる。おぶ君が店の片付けをして、大好きな家ではなくピースに泊まる。朝子さんと吉郎君が日常生活の中で絆を深め合う。等々すごいなあと思う。

それに引き換え自分はこの一年何をしてきたか。訳の分からん制度の穴埋めを口実に自分の憂さ晴らしをしていただけではないか。

晋作さんの個展にしっかりと付き合おうと思う。晋作さんの何がつき動かしているのか、学びたい。ピースクラブの関係者には、個展に行つて晋作さんとじっくり、出会ってほしい。「障碍」があるということはずいことと

思う。

ピースクラブは「障碍者」で運営している。私らは、ほんの少しお手伝いさせてもらっている。そのことを日々痛感している。「障碍者」として「同志」と思ってもらえるかは別として。

私自身が再生できるとしたら、晋作さんと森本さんと「生きる」ことを共有出来た時やと思う新年であります。

そしてそれは、自分がど

こまでも心豊かで幸せでなければ実現しない。「愛」がどこまで溢れるか。どこまで正直な人間になれるか。  
(かじ)

## これからのスケジュール

2月9日(土)～10日(日)  
蟹かにツアー(第2班)

2月17日(日)～20日(水)  
宮占島援農(?)

2月18日(月) 比嘉貞優子ライブ ピースクラブ  
p m 19:00

\*今号は編集担当の中村晋作の個人的怠慢のため、発行が遅れました。早くから原稿をお寄せいただきました方々、読者のみなさま、申し訳ありません。